

TEMPUS FUGIT

巻頭随筆 丘の上 三田の建築と「賭」

—二〇〇号に寄せて サロンとしての『三田評論』

『三田評論』への期待をこめて

相川直樹

藤森三男

山崎信寿

和気洋子

4

5

6

8

〈トークセッション〉

グローバル化の中の大学の役割と  
学問の自由

濱田純一 / 茂木友三郎 / 清家 篤 /

岩谷十郎 / 大石 裕

10

平成二十七年  
度  
大学卒業式

塾長式辞

清家 篤

26

話題の人

『三田評論』のカットを描いて三十九年

阿部慎蔵さん

インタビュー

伊藤公平

32

二〇〇号特別座談会

小論文と格闘した高校生の夏

小泉 妙

／小松原宏子 / 高野清見 / 山内慶太

38

三人閑談

鳥の世界にひきこまれ

斉藤ヒロコ / 榛葉忠雄 / 小野裕剛

50

写真に見る  
戦後の義塾 5

戦後復刊した『三田評論』

65

義塾を  
訪れた外国人

第5回 サミュエルソン

瀬古美喜 68

福澤諭吉をめぐる人々 その2 三人の姉

末木孝典 72

平成二十八年年度収支予算と義塾財政

清水雅彦 76

Researcher's Eye

絨毯をめぐる旅  
気づき

鎌田由美子  
板垣悦子 64 31

熟員クロスロード  
古代と現代をつなぐ健康法  
最後のグローバルスポーツ

石井 泉  
宮地直樹 67 63

執筆ノート

『手話を生きたる——少数言語が多数派日本語と出会うところで』  
『祖父 大平正芳』  
『岡村昭彦と死の思想——「いのち」を語り継ぐ場としてのホスピス』

斉藤道雄  
渡邊満子  
高草木光一 83 82 81

社中文歓

綿

日比 暉／井上裕基／寺本恭子／野田晋平

84

〈新慶應義塾200科〉5 『三田評論』

91

ヒサクニヒコのマンガ何でも劇場 special (口絵)

寸描(深谷昌弘)  
福澤先生の漢詩 104 61

山上広場 86  
寄付・維持会申込者芳名

塾長室日誌(平成二十八年三月) 88

塾内ニュース 92

三田会だより 96

原絵▼阿部愼蔵 本文カット▼阿部愼蔵・ヒサクニヒコ 口絵写真▼井上悟、竹松明季 表紙デザイン▼巖谷純介  
表紙絵▼久住三郎「マンハッタン・ミッドタウンよりトライボロブリッジをのぞむ」(個人蔵)